

(二〇一一年度)

5 国語問題 (六〇分)

(この問題冊子は16ページ、三問である。)

受験についての注意

- 一、監督の指示があるまで、問題冊子を開いてはならない。
- 二、携帯電話・PHSの電源は切ること。
- 三、試験開始前に、監督から指示があったら、解答用紙の右上の番号が自分の受験番号かどうかを確認し、氏名を記入すること。次に、解答用紙の右側のミシン目にそって、きれいに折り曲げてから、受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し、机上に置くこと。
- 四、監督から試験開始の合図があったら、この問題冊子が、右に記したページ数どおりそろっているかどうか確かめること。
- 五、解答は解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで、そのマーク欄をぬりつぶすこと。その他の部分には何も書いてはならない。
- 六、筆記具は、HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能、計算機能、辞書機能などを使用してはならない。
- 七、マークをするとき、枠からはみ出したり、枠のなかに白い部分を残したり、文字や番号、枠などに○や×をつけたりしてはならない。
- 八、訂正する場合は、消しゴムでていねいに消すこと。消しすぎはきれいに取り除くこと。
- 九、解答用紙を折り曲げたり、破ったりしてはならない。採点が不可能になる。
- 十、試験時間中に退場してはならない。
- 十一、解答用紙を持ち帰ってはならない。
- 十二、問題冊子は必ず持ち帰ること。

一
次の文章を読んで、後の問に答えよ。

¹ 議論が成り立つためには、探求すべき問題を共有することが必要である。問題を共有するとは、ある疑問文に対する答えを見つけることが重要だという認識を共有することである。もう少し詳しく言うと、(問題が、現実認識と意図の矛盾として構成されているとすると)問題を構成している現実認識と意図を共有し、その矛盾を解決することが重要だという認識を共有していることである(その問題の解決に共同して取り組もうとするかどうかは、問題の共有とは、論理的には別の事柄である。しかし、実際には、共同して取り組むことが不可能でないかぎり、共同して取り組もうとすることを妨げるものはないだろう)。ある問題が共有されたならば、その答えや答えの求め方、さらにその問題を解くために解かなければならない別の問題設定などについての合意が得られないとしても、議論は可能である。これに対して、会話は探求すべき問題の共有がなくても可能である。

ただし、問題の共有は議論が成立するための必要条件ではあるが、² 十分条件ではない。なぜなら、問題を共有しても議論が成り立つとはかぎらないからである。たしかに、問題を共有すると、その問題の解決を求めて議論が始まるだろう。議論の開始のためには、おそらく問題の共有で十分だろう。しかし、議論を開始しても意見の対立がどうしても解消できず、議論が一向に進展しなくなり、それ以上議論しても不毛であると感じられ、議論の継続が困難になる場合がある。それゆえに、問題の共有は、議論の継続のための必要条件ではあっても、十分条件ではない。議論の継続のためには、議論の進展が必要である。議論が進展するとは、問題解決に近づくということである。それは、ある問題を解決するための方法がわかる、解決の方法についての合意ができる、ある問題を解決するために事前に解決すべき下位の問題が解決する、もしくは下位の問題の解決に近づく、などである。しかし、議論を継続できなくなったとしても、それまでの議論が無効になるわけではない。議論は、記録して保存することが可能である。記録された議論は、よいアイデアを思いついたり、状況が変化したりして、いつか再開する可能性がある。これに対して、議論が進展しない場合にも、会話を続けることは可能である。なぜなら、会話は合意を目指す

しているのではないからである。

では、会話の成立のための必要条件は何だろうか。それは問題の共有ではなく話題の共有である。われわれは問題を共有していなくても会話を続けることができる。しかし、話題の共有なくしては、会話は成り立たない。そのときには、各人が別の話題を話しているという「集団的独語」(ピアジェ)と呼ばれる状態になるだろう。もちろん、会話の中で話題が変化してゆくことはあるが、その場合にもその都度の話題の共有が必要である。では、話題を共有するとはどういうことだろうか。それは、ある対象や事柄に関する同じ興味関心を共有するということである。たとえば、パンダに関心をもつ動物学者と国際政治学者は、同じ対象に関心をもっているも、彼らに関心を共有しているとは言えない。動物学者は、生物としてのパンダに関心をもっており、国際政治学者は、中国の外交政策に利用されている贈り物としてパンダに関心をもっているからである。同じ対象や事柄が関心の対象になっていくことだけでは話題の共有と言うには不十分である。話題を共有するためには、ある対象や事柄に対して同じ興味関心をもつことが必要である。より詳しく言うと、ある対象や事柄について共通する観点で語られた諸命題について、知りたいことや、言いたいことがあるということである。しかし、共通する観点といってもまだ曖昧である。なぜなら、二人の人間がパンダに対して、動物としてのパンダという観点で興味関心を共有しているとしても、一人はその生息に興味をもっており、一人は毛皮の模様に関心をもっているとすると、そこから関心のある観点は分岐してゆくからである。対象や事柄についての観点の共有は、議論の場合の問題の共有に較べると曖昧である。それゆえに、会話において、話題が変化したのか持続しているのかを明確に区別することもしばしば困難である。

話を少し戻すが、話題を共有するためには、何が必要だろうか。それは、互いの発話についての理解および理解の一致である。そのために、相手の発話内容に対する合意ではなく、相手の発話内容の理解についての合意を求め合うことになる。もし発話内容の理解についての合意が成り立っていないならば、少なくともその話題に関する会話は成り立っていない。もしこの理解の合意が得られないときには、議論が必要になるだろう。たとえば「あなたの言いたいことは、……です」ね」という確認の発話についての合意が得られないならば、「あなたの言いたいこと」が何であったのかについての議論が必要になる。このよう

な仕方でも、会話およびその継続は、じつは、⁶発話の意味に関するメタレベルでの議論にもとづいている。会話の中には、理解についての合意を求めるメタレベルでの議論、あるいは理解についての問題の共有という要素がつねに働いている。もっとも、言葉の意味の理解に関するこの議論も行き詰まることもある。ただし、そのときにもこの行き詰まりを共通の話題にすることで会話を継続することは可能である。

ところで、一つの議論は一つの問題の解決を目標にしている。したがって、問題が変化したならば、議論の参加者が同一であつても、それは別の議論である（もちろん、一つの問題が、入れ子型になったさまざまな諸問題に分解される場合には、それら諸問題に関する諸議論も入れ子型の関係に入りより大きな一つの議論の諸部分を構成することになる）。逆に、参加者が変化しても、同一の問題についての議論であれば、同じ議論であると言える。一つの議論は、時代と場所を越えて継続する。ただしその場合に、それがある問題に関する議論の「伝統」と語るのは⁷適切ではない。なぜなら、その議論には、伝統という曖昧な連続性でなく、明確な連続性があるからである。

これに対して、会話については、その伝統を語ることができる。会話の場合には、話題が変化しても、それは別の会話が始まることを意味するのではない。むしろ、話題の変更そのものが会話の営みの一部である。逆に、同じ話題であつても、参加者が変化すれば別の会話になる。議論は記録され保存され再生され、それをもとに他の人が継続することができるが、会話はたとえ記録され保存され再生されたとしても、⁸それをもとに他の人が継続することはできない。なぜなら、会話を導くのは、話題への興味関心だけでなく会話相手への興味関心、会話の成果だけでなくそのやりとり自体への興味関心だからである。会話の中に新しい参加者が加わると、そのとき会話は別の会話になる、と語ることは難しいかもしれないが、しかしそうやって、少しずつ参加者が入れ替わって全員が入れ替わってしまったときに、それを相変わらず同一の会話だということは難しいことと思われる。会話の同一性の問題は、⁹人格の同一性の問題とよく似た困難を抱えている。つまり、会話に関しては厳密な意味の同一性を語ることが妥当でないのかもしれない。それは逆に言うと、会話の連続性について「伝統」という曖昧な表現を当てて理由になるのかもしれない。

〔注〕ピアジェ：スイスの心理学者（一八九六―一九八〇）

メタレベル：当該の問題のレベルを超えたレベル

問一 傍線部1（議論が成り立つ）ために必要な条件の例として適切でないものを次の中から一つ選べ。

- a 地球温暖化をどうやって防止するかについて共通に認識している。
- b 地球温暖化の防止策を開発することの重要性を共通に認識している。
- c 地球温暖化を防止することが課題であることを共通に認識している。
- d 地球温暖化の現実と温暖化防止の意義とを共通に認識している。

問二 傍線部2（十分条件ではない）ことの意味としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 問題の共有は必ずしも議論の有効性に結びつかない。
- b 問題の共有は必ずしも議論の開始に結びつかない。
- c 問題の共有は必ずしも議論の共有に結びつかない。
- d 問題の共有は必ずしも議論の進展に結びつかない。

問三 傍線部3(会話の成立のための必要条件)としても適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 話し合われている問題を継続的に各人が共有している。
- b その話題について各人が話し合うことを継続している。
- c 各人が話し合っている話題をその都度共有している。
- d その話題について各人が合意への指向性をもっている。

問四 傍線部4(話題を共有する)の説明として適切でないものを次の中から一つ選べ。

- a ある対象の理解について興味を共有していること。
- b 同じ対象を関心の対象として共有していること。
- c 共通な観点からある対象に対して関心をもつこと。
- d ある対象に対して知りたい点を共有していること。

問五 傍線部5(相手の発話内容の理解についての合意)の例としても適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 相手の用件の内容を、言われたとおりにメモを取る。
- b 用件の内容が聞き取れなかったので、相手に聞き返す。
- c 用件は聞き取れたが意味が分からなかったので、相手に確かめる。
- d 用件の内容を復唱することで、間違いがないことを相手に確認する。

問六 傍線部6(発話の意味に関するメタレベルでの議論)の意味としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 話していることの内容を、発話者を越えた第三者的な視点で評価すること。
- b 発話している言葉について、辞書などでその客観的な意味を検証すること。
- c 言葉を発話することがどんな意味をもつ行為なのかについて議論すること。
- d 言葉が発話される際、その言葉の意味がどう理解されるのか確認すること。

問七 傍線部7(適切ではない)こと理由として適切でないものを次の中から一つ選べ。

- a 問題を共有する議論は、たとえ参加者が変わっても同じ議論であるから。
- b 「伝統」としての議論がもつのはいつでも曖昧な連続性ではないから。
- c 特定の問題解決を目標とする議論は同一の議論として連続性をもつから。
- d 参加者が変わっても議論は常に一つの問題の明確な解決を目指すものだから。

問八 傍線部8(それをもとに他の人が継続することはできない)こと理由としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 参加者が変化すると、会話の話題もそれまでとは変わったものになってしまうから。
- b 会話は、その成果や相手の人間への興味によって導かれるものであるから。
- c 参加者が変わると、たとえ話題が同じでもはや同一の会話とは言えなくなるから。
- d 会話は、相手との会話のやりとり自体のおもしろさによって成立するものだから。

問九 傍線部9（人格の同一性の問題とよく似た困難）の説明としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 会話は人格と同様にいつでも変化し続けているので、ある時点での固定した定義を与えることが難しい。
- b 会話は人格と同様に幅をもった多義的な概念なので、どれか一つに特定した意味を与えることが難しい。
- c 会話は人格と同様に変化しながら継続しているものなので、一つの持続的な意味を与えることが難しい。
- d 会話は人格と同様に外部から客観的に見られないので、自分自身について定義することが難しい。

問十 議論と会話の区別として筆者の主張に合致するものを次の中から二つ選べ。

- a 問題が変われば別の議論になるが、話題が変わっても会話は継続される。
- b 議論は記録されて他人が継続できるが、会話は記録されず他人が継続できない。
- c 参加者が変化しても議論の内容は同一であるが、会話の話題は変化してしまう。
- d 議論は問題の内容が中心となるが、会話は参加者の顔ぶれが中心である。
- e 内容が変われば別の議論になるが、問題が変わっても別の会話にはならない。
- f 議論は問題の共有を前提としており、会話は話題の共有を前提としている。

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

歌をよむ事、¹古歌を解せずしてはよまれざるにはあらず。されど一切に古歌を解せざれば、²面に牆^{かき}して立てるがごとく、最も便なし。その古歌を解する事を学ぶを歌学といふ。わが国、³及第おとろへて歌作さかんに、⁴撰集起りて国史絶えたり。故に、古来歌を嗜む人の文才を兼たるは稀なり。さるから、歌学とて学ぶ所ごとくその標^{すゑ}のみにして、その本には目を及ぼす者もなし。

それ歌書の中には万葉集より古きはなし。これを学びずば歌学といふべからず。かの集は天平宝字三年元日の歌までを載せたれば、これを作りたる時世知るべく、これを記せる人は大伴家持なる事、書中にて明らかなり。然るを、古今集巻第十八に、

「貞観の御時、万葉集はいつばかりつくれるぞと問はせ給ひければ、よみてたてまつりける 文屋の有季^{ありすゑ}」

かみな月 時雨ふりおける ならの葉の 名におふ宮の ふることぞこれ⁵

と見えたり。然れば、清和天皇も万葉をば見給はざりけるにや。または、見給ひても、作者を解し給はざるから、天平宝字までの歌を、あとより書き集めたるにもや、とおぼしけるにや。有季が「ならの葉の名におふ宮」と答へ奉りしも、汎^{ぼつ}としたる答にこそありけれ。平城宮は元明より光仁まで、七世の間なれば、その七世の中いづれの御世とか聞くべき。貫之・淑望が古今の序を見れば、かの平城宮といへるより混じて、平城天皇の御宇に成れる書と心得たると見えたり。仮名序の如くなれば、人麻呂・赤人も同じくその時の人なると心得たるにや。⁶さらばまた甚だしからずや。しかのみならず、長歌を集めて、その端に短歌と題し、万葉集に入らぬ歌を集むると序して、猶^{なほ}万葉の歌を撰^{えら}み入れたり。ただし、その中、人麻呂・赤人を平城天皇の時の人とせる文は、真名序に合はざれば、若しくは、人麻呂の上の正三位の字などと同じく、後人の加筆なるも知らず。万葉にある歌の入りたるも亦、後人の加へたるもはかるべからず。ただ万葉集を平城天皇の御宇に作る所とし、長歌を以て短歌と称せる誤りは、まぬがるべからず。然れば、貫之も万葉集をば見ざりけるにや。または見つれども一切によめざりけるやら

ん。いといぶかし。

(荷田在満『国歌八論』)

問一 傍線部1はどのような意味か。もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 古歌を理解できなければ歌を詠むことはできない。
- b 古歌を理解できても歌を詠むことはできない。
- c 古歌を理解できても歌を詠めるとは限らない。
- d 古歌を理解できれば歌を詠むことができる。
- e 古歌を理解できなければ歌を詠めないわけではない。

問二 傍線部2はどのような意味か。もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 漢学の教養の水準が低下した。
- b 漢学の教養を持つ者が減少した。
- c 官吏登用試験が有名無実化した。
- d 官吏登用試験の合格者が激減した。

問三 傍線部3、4に撰集・国史とあるが、以下の作品について、撰集はA、国史はB、その他はCとせよ。

- a 古語拾遺
- b 玉葉和歌集
- c 日本文徳天皇実録
- d 神皇正統記
- e 金槐和歌集
- f 金葉和歌集

問四 有季の歌「かみな月 時雨ふりおける ならの葉の 名におふ宮の ふることぞこれ」について、あてはまるものを二つ選べ。

- a 「かみな月」は「時雨」にかかる枕詞である。
- b 「かみな月 時雨ふりおける」は「なら」を導く序である。
- c 「なら」は「榎」と「奈良」、「葉」は「木の葉」と「時代」、「ふる」は「降る」と「古」の掛詞である。
- d 「これ」とは「万葉集」のことである。
- e この歌には係り結びが用いられている。

問五 傍線部5の「作者」とは誰のことか、もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 大伴家持
- b 文屋有季
- c 清和天皇
- d 平城天皇
- e 紀貫之

問六 傍線部6「さらばまた甚だしからずや」とあるが、何について言っているのか。もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 元明天皇から光仁天皇まで七代続く奈良時代を単に「ならの葉の名におふ宮」と有季が答えたこと
- b 天平宝字以降の歌の後から追加したと清和天皇が考えていたらしいこと
- c 人麻呂・赤人が平城天皇時代の人だと紀貫之が考えていたらしいこと
- d 人麻呂を赤人と同じく奈良時代の人として紀淑望が論じたこと

問七 次の中から、本文中の論旨と合致するものをA、合致しないものをBとせよ。

- a 清和天皇は万葉集を見ていなかった。
- b 紀貫之は「ならの葉の名におふ宮」を平城天皇の時代と誤解したようだ。
- c 古今集では短歌の題の下に万葉集に掲載されていない歌を集めている。
- d 「正三位柿本人麻呂」としたのは後人の加筆である可能性がある。
- e 紀貫之は万葉集を見たとしても、訓読することはできなかったようだ。
- f 最近の歌人は歌学の枝葉末節までを学ぼうとしない。
- g 最後に載る天平宝字三年元日の歌の作者が大伴家持なので万葉集の編者も家持であることがわかる。

問八 次の歌の作者について、柿本人麻呂をA、山部赤人をB、紀貫之をC、その他をDとせよ。

- a 人はいさ心も知らずふるさは花ぞ昔の香にほひける
- b 東の野にかぎろひの立つ見えてかへり見すれば月傾きぬ
- c 春の野にすみれ摘みにと来し我そ野をなつかしみ一夜寝にける
- d 袖^{そで}ひちて結びし水の凍れるを春立つ今日の風や解くらむ
- e 田子の浦ゆうち出でてみれば真白にぞ富士の高嶺に雪は降りける
- f 春の野に霞たなびきうら悲しこの夕かげに鶯^{うぐひす}鳴くも

三

次の文章は、宋の欧陽修「春秋論」の一節である。これを読んで後の間に答えよ。ただし、設問の関係で返り点・送り仮名を付していないところがある。

今有^リ一人^一焉。父病^ミ、躬¹進^メ薬^ヲ而不^レ嘗^ガ。又有^リ一人^一焉。父病^ミ而不^レ躬^ニ進^ス。薬^{シテ}而^{シテ}二父皆死^ス。又有^リ一人^一焉。操^{トリテ}刃^ヲ而殺^ス其父^ヲ。使^シ吏治^ス之^ヲ、是^ノ三人者^ハ、其罪同^{ジキ}乎。曰、雖^モ庸吏^ト猶^ホ知^{ラン}其不^ル可^{カラ}同^{ジク}也。躬^{シテ}薬^{シテ}而不^レ知^ラ嘗^ム者^ハ、有^ル二愛^{スル}父^ヲ之^ノ孝心^ニ、而不^レ習^ス於^ニ礼^ニ。是^レ可^キ哀^{レム}也。無^キ罪^ノ之人^{ナル}爾^ノ。不^ル躬^{シテ}薬^ス者^ハ、誠^ニ不^{ナリ}孝^{ナリ}矣。雖^モ無^シ二愛^{スル}親^ヲ之^ノ心^ニ、X未^ダ有^ラ二殺^ス父^ヲ之^ノ意^ニ。使^{メバク}善^ク治^ム獄^ヲ者^ハ、Y当^ニ与^レ操^レ刃^ヲ殊^レ科^ヲ。況^シ以^テ躬^{シテ}薬^ス之^ノ孝^ニ、Z与^レ操^レ刃^ヲ者^ハ同^ジ其罪^ニ乎。此庸吏之不^レ為^ス也。

〔注〕○躬―自身で。 ○蔽―判断する。

(『唐宋八大家文読本』による)

問一 傍線部123はどのような意味か。それぞれ次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- 1 a 父親は自分で薬を飲もうとしたが、なめることもできなかった。
b 父親は自分で薬を飲もうとしたが、子供はそれを確かめなかった。
c 子供は自分から薬を飲ませようとしたが、父親はなめもしなかった。
d 子供は自分から薬を飲ませたが、なめて毒見をしなかった。

2 a 父親は自分から進んで薬を飲もうとしなかった。

b 父親は自分で薬を飲むことができなかった。

c 子供は自分から薬を飲ませようとはしなかった。

d 子供は自分で薬を調合して飲ませなかった。

3 a 役人に訴えて三人を捕えたならば、

b 役人の力を借りて父親を治療できたならば、

c 役人を派遣してその地を統治させたならば、

d 役人に三人の行為を取り調べさせたならば、

問二 傍線部45と同じ字義で用いているものはどれか。それぞれ次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

4 a 中庸 | b 登庸 | c 租庸 | d 凡庸 |

5 a 教習 | b 旧習 | c 習熟 | d 常習 |

問三 空欄部XYZをうめるのにもっとも適切なものはどれか。それぞれ次の中から一つ選べ(同じものを二度用いない)。

- a 反
- b 猶
- c 又
- d 然

問四 傍線部6「之」とは何をさしているか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 無罪之人
- b 躬進薬而不嘗
- c 不躬進薬
- d 操刃而殺其父

問五 傍線部7「殊科」とはどういう意味か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 有罪と無罪との区別をつける。
- b 無罪ではなく有罪にする。
- c 有罪でも重い罪にする。
- d 同罪ではなく別な罪状にする。

問六 傍線部8について、I、IIの間に答えよ。

I 「此」とはどういうことをさしているか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 躬進薬而不嘗の者を不躬進薬の者と同罪にする、ということ。
- b 不躬進薬の者を操刃而殺其父の者と同罪にする、ということ。
- c 躬進薬而不嘗の者を操刃而殺其父の者と同罪にする、ということ。
- d 躬進薬而不嘗の者を不躬進薬の者、操刃而殺其父の者と同罪にする、ということ。

II 書き下し文として、次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a これ庸吏すらこれを為さざるなり。
- b これは庸吏の為さざるなり。
- c これ庸吏はこれを為さざるなり。
- d これは庸吏もこれを為さざるなり。

